

### 映像制作用リモートカメラに機能を拡張する「アドオンアプリケーションズシステム」を提供 第一弾として「自動追尾」と「自動ループ」のアプリケーションを発売

キヤノンは、有償アプリケーションのインストールにより、映像制作用リモートカメラに機能を拡張する「アドオンアプリケーションズシステム」の提供を開始します。第一弾として、“自動追尾アプリケーション RA-AT001”と“自動ループアプリケーション RA-AL001”を2023年4月中旬より発売します。



イベントや講義配信での自動追尾のイメージ



コンサート配信での自動ループのイメージ

ユーザーは、用途に応じて必要な有償アプリケーションをインストールすることで、機能を追加することができます。サーバーやPCなど外付けのハードウェアを要することなく、カメラ本体内で動作<sup>※1</sup>するため、シンプルなシステム構成が可能で、高い応答性を実現しています。オペレーターはカメラのスイッチングや配信といった他の作業に集中することができ、リモートプロダクションにおける作業負荷軽減や省人化に貢献します。対象機種は屋内型 4K リモートカメラの最上位モデル「CR-N700<sup>※2</sup>」（2022年12月発売）です。今後、「アドオンアプリケーションズシステム」対象のリモートカメラおよび提供アプリケーションを拡充予定です。

#### 1. 人物の動きに合わせてカメラが被写体を自動で追いかける「自動追尾」

プレゼンターが登場するイベントや講義などの配信において、指定した人物を自動追尾します。カメラ内で解析をするため追従性が高く、全身、上半身、バストアップといった自由度のある撮影画角で、ゆっくりした歩行から、早歩きまで対応<sup>※3</sup>します。高精度なカメラのパン・チルト機構との相乗効果で、一般的なイベントや講義用途で想定される人物撮影に加え、映像制作用途で求められる低速での人物撮影でもなめらかな自動追尾を実現します。また、「構図設定」、「追尾感度設定」、「優先表示領域」ほか豊富な調整項目を備えています。

#### 2. 指定した地点を巡回・往復する規則的な動作を自動化する「自動ループ」

イベント、インタビュー、スポーツの動画配信や、TVCM・映画の制作などにおいて、従来カメラマンが演出として撮影していた緩やかなパン・チルト・ズーム（PTZ）動作などを繰り返し自動で行います。指定した複数の地点を巡回する動作と、往復する動作から選択でき、地点ごとの停止時間を決める「ポジション設定」、移動速度などを決める「ルート設定」、「プレビュー」、「開始」まで、設定画面内で簡単に実行できます。開始・停止時の加減速を調整するフェードモードによって、プロカメラマンのようなカメラワークが可能です。

※1. アプリケーションの設定は、PCのWEB設定ページから指示する必要があります。

※2. 2023年4月中旬に提供予定のファームウェア（無償）のアップデートにより、「アドオンアプリケーションズシステム」に対応可能となります。

※3. 毎秒約1.8mの早歩きまで対応可能です（バストアップの撮影画角は毎秒約1.0mの速さまで対応）。

製品名	希望小売価格	発売日
自動追尾アプリケーション RA-AT001	オープン価格	2023年4月中旬
自動ループアプリケーション RA-AL001		

- 
- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-07-0032
  - リモートカメラシステムホームページ : [canon.jp/remotecam](https://canon.jp/remotecam)

## 〈自動追尾アプリケーション RA-AT001 の主な特長〉

### 1. 高い追従性

- イベントや講義、インタビューなどの動画配信において、指定した人物をフレームアウトさせることなく自動追尾。
- 全身、上半身、バストアップといった自由度のある撮影画角で、毎秒約 0.5m 以下のゆっくりした歩行から、毎秒約 1.8m の早歩きまでの追尾に対応※1。

※1. バストアップの撮影画角は毎秒約 1.0m の速さまで対応。



ユースシーンの例：イベントや講義の配信

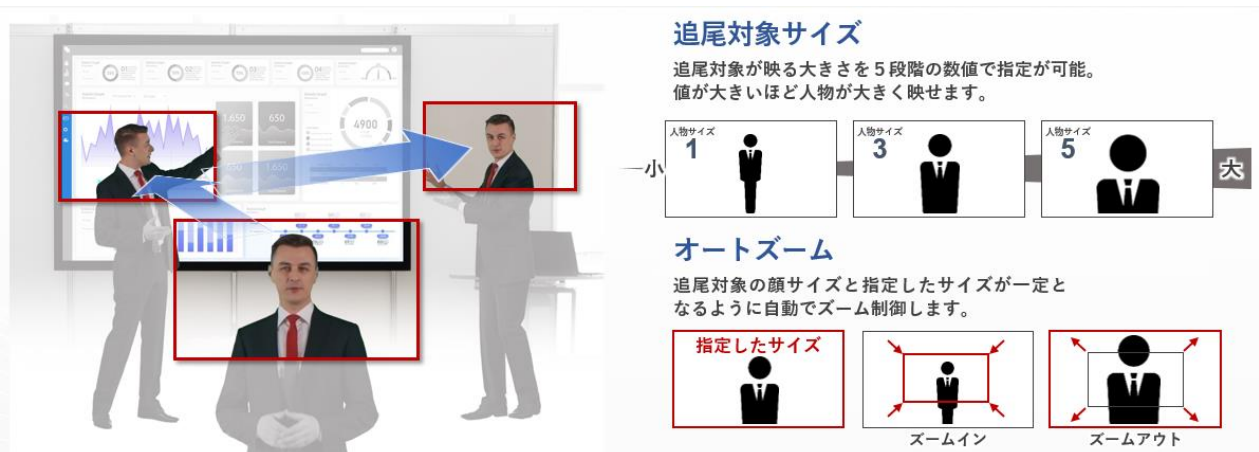
### 2. 高品位な追尾映像

- 低速でも高精度かつ安定した駆動が可能なパン・チルト機構との組み合わせにより、高品位な追尾映像を実現。
- イベントや講義シーンで想定される一般的な人物撮影に加え、映像制作用途で求められる、より低速での人物撮影でも、ゆっくりとした画角制御を実現し、なめらかな自動追尾が可能。

### 3. 豊富な調整機能

- 豊富な調整機能を搭載し、ユースシーンに応じた細かな設定が可能。主な機能は以下のとおり。

	項目	概要
①	追尾時の構図設定	追尾対象者を画面上に表示する構図（人物サイズ、表示位置）を設定し、追尾対象の顔サイズと指定したサイズが一定となるように自動でズーム制御する（オートズーム）。
②	追従対象への追従感度	自動追尾の感度を設定する。感度設定値が大きくなるにつれて、対象者の動きだしに即座に反応する俊敏な PTZ 動作を行う。
③	優先表示領域	板書やスライドなどの指定した領域が画角から外れないように対象者を追尾する。
④	画角固定領域	板書やスライドなど、固定画角で見たい領域がある場合、対象者を追尾して PTZ 制御せずに固定画角で表示する。



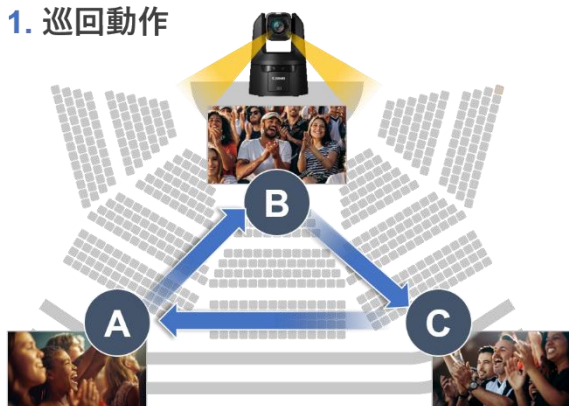
① 追尾時の構図設定のイメージ

## 〈自動ループアプリケーション RA-AL001 の主な特長〉

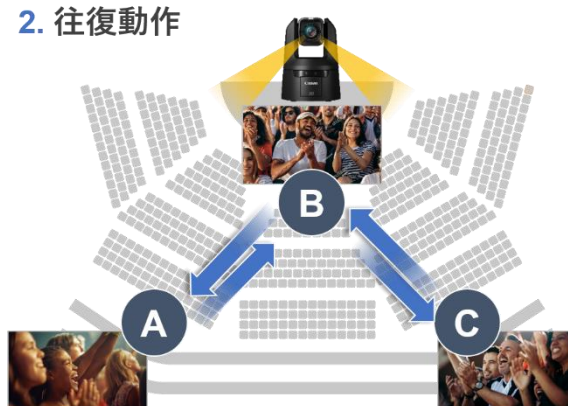
### 1. 選択可能な自動ループ（繰り返し）動作

- イベント、インタビュー、スポーツの動画配信や、TVCM・映画の制作などにおいて、従来カメラマン演出として撮影していた緩やかな PTZ 動作を自動化。
- 自動ループは、指定した複数の地点を巡回する動作と、往復する動作から選択可能。

#### 1. 巡回動作



#### 2. 往復動作



巡回動作と往復動作のイメージ

### 2. スムーズな開始・停止動作

- 登録した 2 つの位置間の移動開始時と停止時の加減速をなめらかに行うフェードモードによって、プロカメラマンのようなカメラワークが可能。



フェードモード

### 3. 簡単な機能設定

- 地点ごとの停止時間を決める「ポジション設定」、移動速度などを決める「ルート設定」、「プレビュー」、「開始」まで、1画面内で実行。



#### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/business/solution/pro-img-sys/remotecam>

#### 〈リモートカメラの市場動向について〉

タブレットやスマートフォンなどのデバイスの普及により、多くの人があつても手軽に映像を視聴できる環境を手に入れています。これに伴い、近年、映像コンテンツの需要が急速に拡大し、録画映像・ライブ映像を問わず、多くの映像コンテンツが制作・配信されています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響でリモートによる映像制作・配信が加速しており、例えば教育分野における授業映像の配信、ビジネス分野におけるセミナー映像の配信などがさまざまな現場で普及しています。また、放送分野では、放送局・プロダクションがリモートカメラを用いた番組制作環境を構築しつつあります。このように、映像制作現場ではリモートによる効率化・省人化を実現する製品やソリューションに対するニーズが高まっています。

(キヤノン調べ)